



外科医の光と闇

外科 吉安 俊介

Q 外科とは？

A 整形、形成、美容など〇〇外科とつく診療科が色々ありますが、それらとは異なり、単に「外科」というと身体の主要な臓器を扱う科であり、さらにその中でも主に一般外科・消化器外科のことを表します。医療業界では、生命に直結するような疾患を診る内科・外科などをメジャー科、その他をマイナー科と表現したりします。

Q どんな仕事？

A 主な業務の腹部手術と周術期管理以外にも外来診察、救急対応、内視鏡検査や治療、抗がん剤治療、緩和ケアなど業務内容は多岐にわたります。

Q どうやって外科医になるの？

A 手先が器用だから？成績が優秀だから？どちらも違います。日本では、大学の医学科(6年)を卒業し医師国家試験に合格した時点で医師となります。そこから初期研修(2年)で色々な診療科を経験したのちに、医師個人の自由意志により自身の診療科を選択します。要するに、選ばれるのではなく自ら志願して外科医になるのです。

Q 外科は人気がある？

A 医療ドラマや小説では外科医が主役のものが多く、世間的には「外科は数ある診療科の中で最も花形の科」と認識されているように思います。ところが、医学生・研修医からは顕著に人気が無く、消化器外科医の数は減少の一途を辿り危機的状況にあります。そのため、本年4月に日本消化器外科学会が「国民の皆様へ」と題した外科医の悲鳴ともいえるような声明を出しました。(右側 QR)

Q なぜ外科医は減っているの？

A 他の診療科に比べて責任が重い、夜間・休

日の時間外労働が多い、どの診療科でも基本給与に差がなく業務内容の重さが給与に結びつかない、一人前になるために多くの経験や自己研鑽が要る、などの理由から報われない仕事だと思われるからです。

Q 外科医が減るとどうなる？

A 特に地方では医師が少ないため、当番の日でなくても急変対応や緊急手術をすることが多々あります。私自身、休日に映画鑑賞中に呼ばれたり、スノーボードで雪山に登るリフトの上で呼ばれたりしたこともあります。無駄になったチケット代やリフト代は誰もかわりに払ってはくれません。緊急手術を行っても特別な手当もありません。それでも人を救えるならば…と急いで病院へ向かいます。息子がまさに産まれるというときも緊急手術をしていました。医療は年中いつでも十分に享受できて当然のサービスだと思われがちですが、実際には医師の使命感・献身によってギリギリで成り立っている部分も多く、地域医療の崩壊はもう目前に迫っています。

Q 外科診療の崩壊を防ぐには？

A 一般の方々に現状を知って頂くことが崩壊を防ぐ第一歩だと考え今回筆を執りました。QRからは是非ご一読をお願いいたします。提唱されている働き方改革も見合う報酬もまだまだ実現には程遠いです。多くの消化器外科医たちが自分の子供に自分と同じ道を勧めないという事実にはやるせなさを感じます。一外科医として、全ての患者様の幸せと外科の明るい未来を願っています。



日本消化器外科学会 HP

外科
月～金

外科外来まで 67-2295 (代表)